

(4) 上位計画、関連計画

①第5次入間市総合振興計画

「香り豊かな緑の文化都市」を将来像とし、6つの施策大綱と、それを実現するための具体的な施策を示している。

施策大綱のうちの1つ「住みよく美しいまち」の中の施策の1つとして、「公共交通機関の充実」が挙げられている。

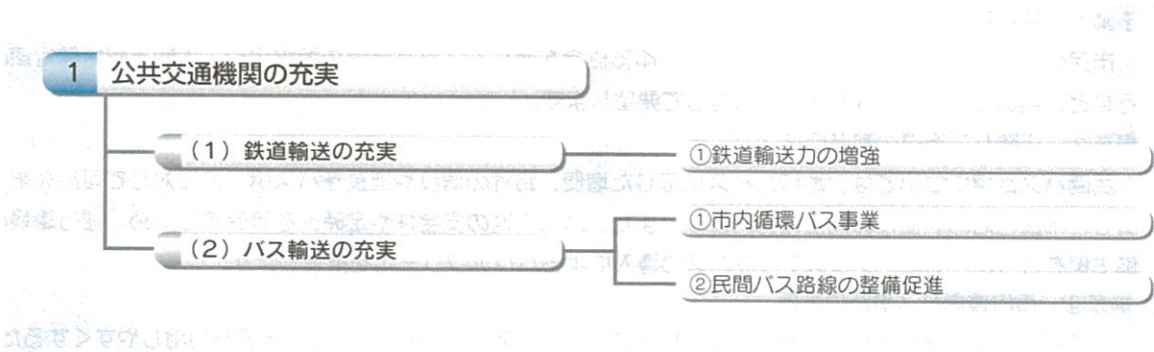


◆基本方針

JR 八高線と西武池袋線の輸送力の増強については、埼玉県がとりまとめている鉄道整備要望などさまざまな機会を通じて関係機関に働きかけます。

市内循環バスは、より市民が公共施設を利用しやすくし、高齢者等の活動範囲を広げるために、利用者の意見や要望を参考にさらに充実します。

民間バス路線については増便、路線の増設や延長をバス事業者に要請し、市民生活の利便性の向上に努めます。



出典：「第5次入間市総合振興計画」

②第5次入間市総合振興計画 後期基本計画（平成24～28年度）

総合振興計画における基本方針に基づき、後期基本計画では、具体の施策及び事業が示されている。

第1項 公共交通網の検討

◆施策1 公共交通網の整備方策の検討

事業① 公共交通網の整備方策の検討

市民の利便性が向上し、公共交通機関を利用する市民が増加するように、安全で円滑に移動するための交通網等の整備方策について検討します。そのために、市民・民間事業者・行政の3者による協議会等の設立や都市交通体系整備方針、公共交通の整備に関する計画等の策定を検討します。

〈評価項目〉

評価項目名	目標値設定の考え方	現状値	後期目標値	目標達成値
通勤通学満足度（市民意識調査）	通勤通学に対する市民の満足度を高めることで、公共交通網の整備の達成度を測ります。	7.0%	8.0%	10.0%

第2項 公共交通機関の充実

◆施策1 公共交通機関の充実

事業① 鉄道輸送力の増強

市民の交通利便性を向上させるため、あらゆる機会を通じてJR八高線の複線化や、入間市駅始発電車の運行など、輸送力の増強を鉄道事業者に対して要望します。

事業② 民間バス路線の整備促進

民間バス路線については、地域ニーズに応じた増便、路線の増設や延長をバス事業者に対して可能な限り要請し、市民生活の利便性の向上に努めます。また、バス交通の安全性や定時性を確保するため、運行環境の整備支援を行うとともに、ノンステップバスの導入によるバリアフリー化を推進します。

事業③ 市内循環バス事業の実施

市内循環バスの運行形態の見直しに伴う検証結果を踏まえて、市民がより公共施設を利用しやすくするため、また、高齢者や障害者等の活動範囲を広げるために、事業の再構築を含めた施策や事業のあり方についての研究を実施します。

〈評価項目〉

評価項目名	目標値設定の考え方	現状値	後期目標値	目標達成値
ノンステップバス導入率	高齢者や障害者の利便性を向上させるために、導入率を高めます。	45.5%	70.0%	100.0%
市内循環バス「ていーろーど」利用者数	公共交通機関の利用促進を図るために、利用者を増やします。	95,959人	101,200人	105,800人
バス利用の便・路線網に対する市民満足度（市民意識調査）	利便性が高まったと感じる市民の満足度を高めることで、公共交通網の整備の達成度を測ります。	-0.273	-0.1	+1.0

出典：「第5次入間市総合振興計画 後期基本計画」

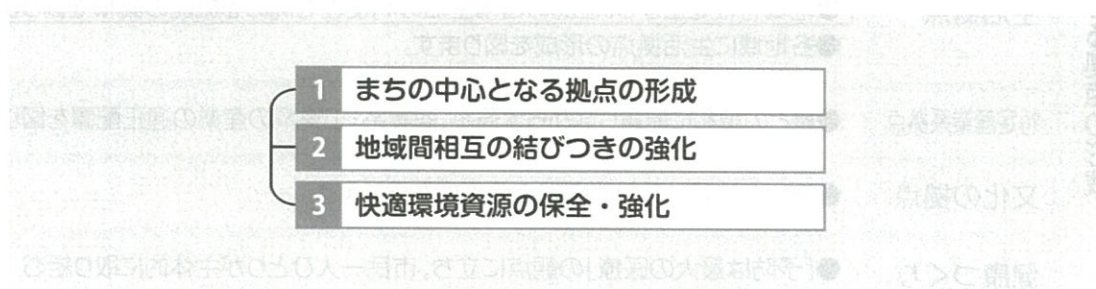
③入間市都市計画マスタープラン改訂版

都市マスタープランにおいて、将来都市構造の構想として、3つの体系が示されている。

その中で、「各鉄道駅や既存の公共施設等を中心とする地区を地域住民の福祉をはじめ日常生活の利便性を高める様々な機能の集積した生活拠点として形成」が挙げられており、その方策として、「地域特性を生かし、住民の日常生活の利便性を高める機能の集積を図る」と明示されている。

2 将来都市構造

将来都市構造の体系



本市の地域特性を踏まえ、まちづくりの目標の実現に向け、「まちの中心となる拠点の形成」、「地域間相互の結びつきの強化」、「快適環境資源の保全・強化」を推進することで、都市の強化・充実を図ります。

1 まちの中心となる拠点の形成

- 商業・業務の中心拠点(入間市駅周辺) および産業の中心拠点(武蔵工業団地・狭山台工業団地等)を都市活動を牽引していくための拠点として形成していきます。
- 各鉄道駅や既存の公共施設等を中心とする地区を地域住民の福祉をはじめ日常生活の利便性を高める様々な機能の集積した生活拠点として形成していきます。
- 圏央道入間インターチェンジ周辺地域を緑との調和に配慮しながら流通系・商業系・工業系の産業が適正に配置された特定産業系拠点として形成していきます。
- 博物館を文化の拠点として形成していきます。
- 健康福祉センターを健康づくり支援の拠点として形成していきます。

2 地域間相互の結びつきの強化

- 都市活動軸、広域都市軸、地域連絡軸、生活軸を各地域および拠点を結ぶネットワーク軸として、各種機能を相互に連携・補完できるよう強化していきます。

3 快適環境資源の保全・強化

- 緑の拠点(加治丘陵・狭山丘陵)、農業生産拠点(金子から東金子地域に広がる茶畑)、水系の軸を大規模な緑資源や水資源を有した、快適な生活環境を演出する資源となるよう保全・強化していきます。

出典：入間市都市計画マスタープラン改訂版

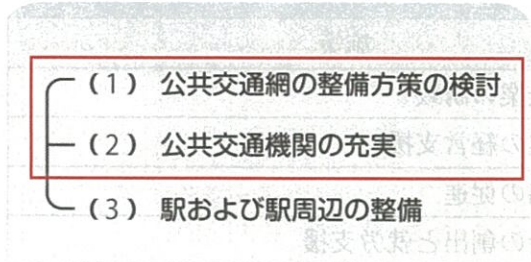
拠点・軸の形成方針表

	拠点・軸	方 策
まちの中心となる拠点の形成	中心拠点 (商業・業務)	<ul style="list-style-type: none"> ●行政サービス機能、商業・業務機能の充実を図ります。 ●市の顔としてふさわしい都市基盤の整備・充実を図ります。 ●にぎわいと機能性のある都市の中心拠点として形成を図ります。
	中心拠点 (産業)	<ul style="list-style-type: none"> ●位置特性を生かした産業基盤の整備・充実を図ります。 ●アクセス道路等の整備を推進します。 ●産業の中心拠点として形成を図ります。
	生活拠点	<ul style="list-style-type: none"> ●地域特性を生かし、住民の日常生活の利便性を高める機能の集積を図ります。 ●各地域に生活拠点の形成を図ります。
	特定産業系拠点	<ul style="list-style-type: none"> ●緑との調和に配慮しながら流通系・商業系・工業系の産業の適正配置を図ります。
	文化の拠点	<ul style="list-style-type: none"> ●文化を波及するための拠点の形成を図ります。
	健康づくり 支援の拠点	<ul style="list-style-type: none"> ●「予防は最大の医療」の観点に立ち、市民一人ひとりが主体的に取り組む健康づくりを支援していくための拠点の形成を図ります。
地域間相互の結びつきの強化	都市活動軸	<ul style="list-style-type: none"> ●都市の活動力を増進させ、都市エネルギーを各所に波及させるために、2つの中心拠点を互いに補完し、結びつける軸として形成を図ります。
	広域都市軸	<ul style="list-style-type: none"> ●あらゆる地域、都市との間で、人、物の交流を活発化、都市のポテンシャル*増大のため、市内、市外各都市とを連絡する軸として形成を図ります。
	地域連絡軸	<ul style="list-style-type: none"> ●各地域間の連携やネットワークの乏しさにより地域間格差が生じる可能性があるため、市内各地域を機能的にネットワークする軸として形成を図ります。 ●特に、東西、南北の十字型の地域連絡を強化します。
	生活軸	<ul style="list-style-type: none"> ●各拠点や広域都市軸、地域連絡軸を相互に結び、拠点、軸を補完する軸として機能強化を図ります。 ●各地域内における住民活動の主動線として地域内交流等を図るとともに、軸の形成を図ります。
快適環境資源の保全・強化	緑の拠点	<ul style="list-style-type: none"> ●加治丘陵、狭山丘陵は、里山として恒久的な保全と活用を図ります。 ●本市の豊かさ、美しさを構成する緑の拠点として形成を図ります。
	農業生産拠点	<ul style="list-style-type: none"> ●一団の茶畑を本市の特産物である茶の生産基盤および景観の両面から保全を図ります。 ●本市の農業の生産拠点として形成を図ります。
	水系の軸	<ul style="list-style-type: none"> ●水環境資源、親水空間として機能する軸として形成を図ります。 ●快適なまち、豊かなまち、豊かな緑と優れた景観を有するまちの形成上で重要なため、保全、整備を図ります。

出典：入間市都市計画マスタープラン改訂版

公共交通に関する具体的な方針として、「公共交通網の整備方策の検討」「公共交通機関の充実」が示されており、鉄道の運行体制の充実・輸送力増強、民間路線バスの維持・確保、運行本数の増加、路線の増設・延伸、市内循環バスの運行形態の改善などが挙げられている。

公共交通の方針の体系



(1) 公共交通網の整備方策の検討

急速な高齢化の進展や人口減少社会の到来を踏まえ、各地域の拠点間や鉄道駅へのアクセス性の向上など、市民の利便性を確保するため、安全で円滑な公共交通網の整備方策について検討します。

また、環境負荷の低減を図るため、過度な自動車利用から公共交通への利用転換および公共交通の利用促進を図るための検討を行います。

さらに、鉄道駅、バスターミナル、駅前広場などの交通結節点の機能とそのあり方について検討します。

(2) 公共交通機関の充実

市民の利便性向上のため、JR 八高線の複線化や西武池袋線の運行体制のさらなる充実など、鉄道の輸送力増強を事業者にはたらきかけます。

民間路線バスについては、既存路線の維持・確保を図るとともに、運行本数の増加や路線の増設・延伸を可能な限り事業者にはたらきかけていきます。また、基盤整備や地域間を結ぶ道路の整備、交差点改良等により定時運行や安全性の向上につなげるとともに、ノンステップバス導入の支援を促進します。

市内循環バスについては、市民がより利用しやすくするために、また、高齢者や障害者等の活動範囲を広げるため、運行形態の改善に努めます。

(3) 駅および駅周辺の整備

すべての人が利用しやすい駅とするため、土地区画整理事業が実施されている駅周辺については、鉄道事業者と連携を図りながら、事業に合わせて、駅前広場や駐輪場などの整備を推進します。また、それ以外の駅周辺については、現状分析や課題の整理を行い、適切な整備手法を検討します。

さらに、駅舎の整備、駅構内の整備、改札口の新規開設などを事業者にはたらきかけるとともに、駅のユニバーサルデザイン化やバリアフリー化を促進します。

④入間市まち・ひと・しごと創生総合戦略（骨子案）

平成 28 年 3 月に公表された「入間市まち・ひと・しごと創生総合戦略」においては、以下に示す 4 点が基本目標として示されている。具体の施策に地域公共交通の充実や連携などが挙げられている。

基本目標 1：働きやすいまちをつくる	
基本施策	施策
・しごとの場を創る	・新たな企業の誘致
	・既存企業の経営支援
	・雇用創出の促進
・しごと探しを支援する	・就労機会の創出と就労支援
	・創業支援
	・継続した経営支援
・地域産業を振興する	・狭山茶の振興
	・地産地消の推進
	・商店街活性化の推進
	・ものづくりの支援及び PR

基本目標 2：ずっと住みたいまちをつくる	
基本施策	施策
・若者の定住を促進する	・若者の転出抑制の推進
	・若者の移住支援の推進
	・移住情報の提供
・親子の同居・近居を促進する	・子育て世代の転入支援の推進
	・移住情報の提供
・子育て世代の移住を促進する	・鉄道沿線からの移住促進
	・移住に関する情報発信
	・体験の場・学習の場の創出

出典：「入間市まち・ひと・しごと創生総合戦略」から抜粋

基本目標 3 : 子どもの育ちを支える	
基本施策	施策
・ 出会いや結婚の希望をかなえる	・ 婚活相談の支援
	・ 婚活情報の提供
	・ 婚活イベントの支援
・ 子育てをサポートする	・ 出産前後の支援
	・ 乳幼児期の支援
	・ 多子世帯の子育て支援
	・ 一貫したサポート体制の整備
・ 子どもの生きる力を育む	・ 学校教育の充実
	・ 放課後の教育環境の整備
	・ 特色ある教育の推進
・ 子どもによるまちづくりを推進する	・ 子どもの意見表明機会の創出
	・ 子どもの参加機会の創出
	・ 中学生・高校生の居場所づくり

基本目標 4 : まちの魅力を活かす	
基本施策	施策
・ 安全で快適な住環境の形成	・ 通勤・通学の利便性向上
	・ 防災・減災の推進
	・ 防犯体制の整備
	・ 安全・安心なライフラインの構築
	・ 地域コミュニティの充実
・ シティセールスの推進	・ プロモーション活動の充実
	・ シビックプライドの醸成
	・ 豊かな自然環境の保全と活用
	・ 来訪客の誘致
・ 広域エリアでの魅力アップ	・ 連携可能な施策の研究・検討
	・ 連携可能な施策の実施
	・ 防災体制・防災活動の連携

出典：「入間市まち・ひと・しごと創生総合戦略」から抜粋

1-2. 入間市の交通特性

(1) 人の動き

①通勤・通学流動

入間市内々が最も多く、次いで東京23区への移動が多い。所沢市、狭山市、飯能市といった近隣市への移動も比較的多く見られる。

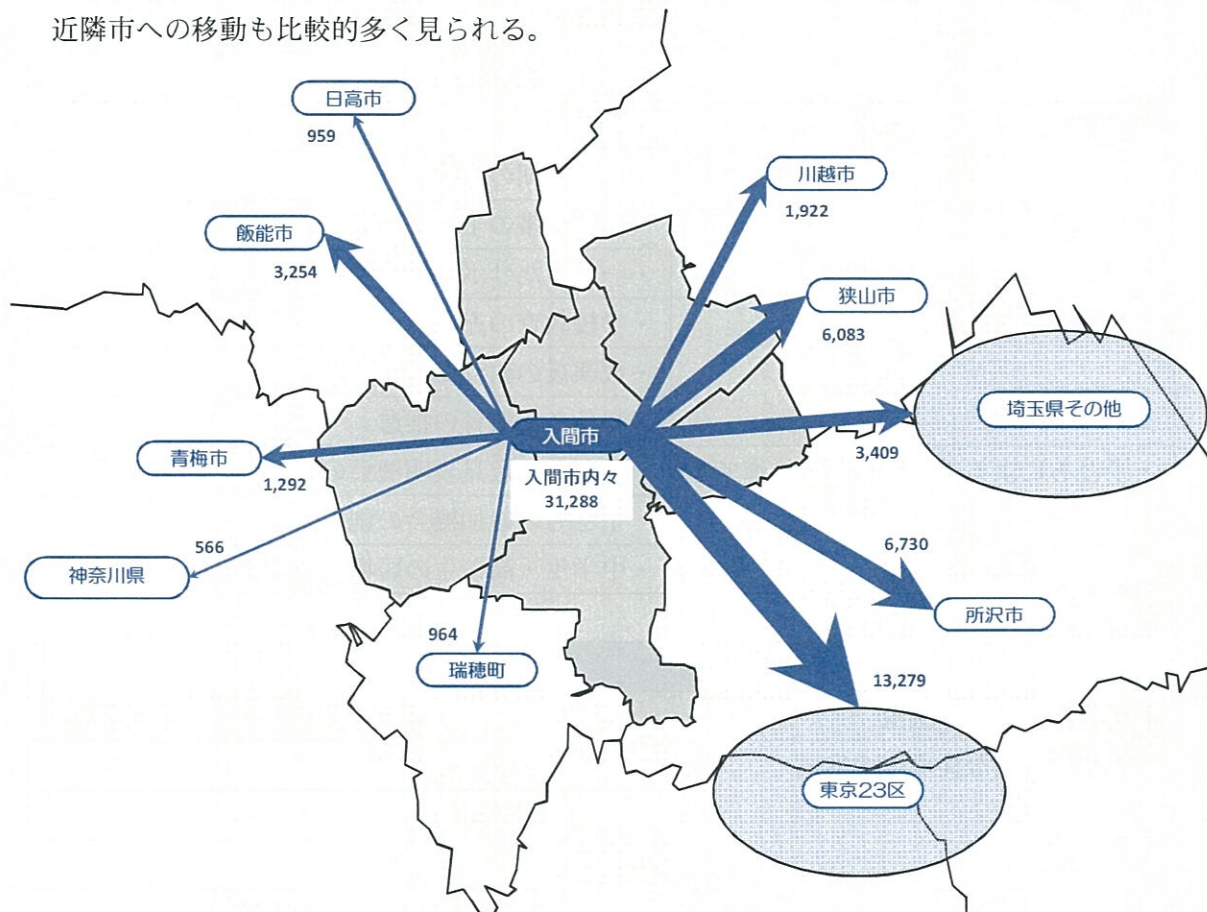


図 1-9 通勤・通学流動

出典：平成 22 年国勢調査

②移動手段

自家用車での移動が最も多く、次いで鉄道・電車となっている。

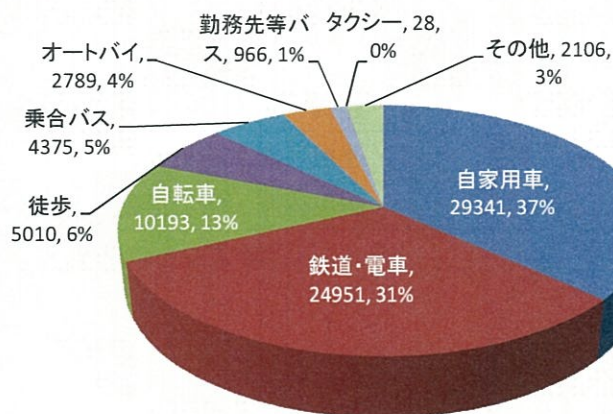


図 1-10 移動手段

出典：平成 22 年国勢調査